

臨海3Rステーション講座紹介

布ぞうり作りの面白さ

布ぞうりの気持ちよさは、一度履いてみるとわかります。特に夏場は布ぞうりが汗を吸い、スリッパと違った使いやすさがあります。臨海3Rステーションでは、古布でぞうり作り講座を行っています。毎回、多数の申し込みがある人気の講座です。

平成28年11月15日(火)に開催した講座で、参加される方々にぞうりの材料としてどのような布を準備されたのかをお尋ねしました。7センチ幅に切った古布を合計30メートル持ってきていただくのですが、皆さん何を使おうかと考えられた様子でした。

結果、家で眠っていた綿布、着なくなった浴衣、捨てようと思っていたTシャツなど、リサイクルとしての要件を満たした布が続々と出てきました。シーツやパジャマを切ってこられた方もいらっしゃいました。新しい布よりも使い古した布の方が、肌ざわりがよく、タオルでも作ることができます。ごみになる可能性の高かった古布が役立ちます。

また、布ぞうりをどなたが使われるかお尋ねしたところ、ご自分で使われる方がほとんどでした。息子さんからリクエストされた方もいらっしゃって、藍色のすてきな布ぞうりが出来上がっていました。

その昔、わらじを履いていた人々は、稲わらをなべて、日々使用するわらじを作っていました。米を収穫した後のわらを捨てるのではなく、履物に変えてしまう知恵に敬服するばかりです。素材こそ違っても、物をよみがえらせる日本人の知恵を継承したいものです。



講座の様子



出来上がった布ぞうり



知っていますか？

お正月の迎え方

新しい年を迎えてお祝いするお正月。お正月は新年の神様である年神様をお迎えして祝う、大切な行事でもあります。年神様は初日の出と共に山から降りてきて、各家庭に一年間の健康と幸福をもたらすとされています。

お正月を迎えるために、家の内外の塵や埃を払う行事である「すす払い」。江戸城で12月13日に行われていたことからこの日を「正月事始め」として、新年を迎える準備を始める日となりました。お正月には、門松や鏡餅、しめ飾りなどの正月飾りで年神様をお迎えします。これらの正月飾りは28日までに飾ります。29日は9が苦を連想させるため、31日は「一夜飾り」となるため避けます。

しめ縄やしめ飾りは、松の内が終わる頃に外すのがよいとされています。松の内は一般的に1月7日までですが、15日というところもあり、地域によって期間が異なります。正月飾りは1月15日に神社で行われる「どんど焼き」で焚き上げて、無病息災を祈ります。持っていけない場合は神社に納めたり、地域の回収などを利用します。ごみとして捨てる場合は、大きめの紙を準備して正月飾りを置き、塩でお清めをして紙で包みます。

臨海3Rステーションでは館内で使用するしめ縄を手づくりしています。ご要望に応じて講座も行っています。スーパーなどで購入するよりも、自分でしめ縄を作ると愛着が生まれ、神様が守ってくれると思うと、よりいっそう晴れやかな気分で新年を迎えることができます。



手づくりのしめ縄

お知らせ

講座の申込方法が変わります

臨海3Rステーションで開催している講座は、往復はがきで申し込みをする講座と、電話で申し込みをする講座があります。より多くの方に講座へ参加していただくために、これまで往復はがきで申し込み受付をしていた講座を、平成29年1月開催分から往復はがきとFAX、ホームページの3つの方法で申し込みできるように変更します。たくさんのお申し込み、お待ちしております。

往復はがき ①希望講座名と開催日 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号を明記の上、お申込みください。 ※往復はがき1枚に1講座です。

FAX ①希望講座名と開催日②住所③氏名④年齢⑤電話番号⑥FAX番号を明記の上、お申込みください。返信はFAXで行います。

ホームページ 『福岡市臨海3Rステーション』トップページ上段のメニューから、『講座案内』の中の『館内催し』または『講座の紹介』を開いてください。希望される講座のページから、必要事項を明記の上、お申し込みください。返信はメールで行います。

平成29年1月から新しい講座が始まります

1月12日(木) 包丁研ぎ

包丁を自分で研いでみませんか？

砥石を使った包丁の研ぎ方を覚えることができます。

1月19日(木) 座学講座(生ごみリサイクル)

生ごみリサイクルを始めてみようという方に向けた講座です。

希望者には生ごみコンポストスターターセットを配布します。



2階のレイアウト変更を行います

平成28年11月下旬～平成29年1月末まで、随時、臨海3Rステーション2階のレイアウト変更を行います。図書コーナーを事務局前に移動させ、3Rやごみ減量に関する展示コーナーを設けます。また、体験コーナーは利用しやすいように、配置換えを予定しています。

来館者の方々にはご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

コラム「愛縁機縁」

身体を使う喜び

「どうぞお身体をいたわってください」というねぎらいの言葉は美しい。これを真に受けて、自らの身体を優しく扱っているとどうなるか。

人間の身体は本来どこもかしこもまんべんなく動かすようにできているのだが、最近はこのことがすっかり忘れ去られ、楽をしているうちに動かさない身体の各部分は怠けぐせがついてしまった。たまにしか使わないと身体はすぐになまってしまい、痛かったり辛かったりするとすぐに楽な方向に向かうのである。

用を足すのに、歩いて行くよりバスや電車に乗りたがり、庭の草取りや掃除・片付けをちょっと手伝ってと言われると、身体を使う用事は断る。たまに出かけた観光地での階段の上り下りで、翌日は足腰が痛くて家事もままならなかった苦い経験を持つ人もあるだろう。

昨秋、九重山に紅葉狩りにでかけた。久しぶりの山登りはまさに苦渋(くじゅう)山行であった。駐車場に車を置いてしばらく歩くといきなりの急坂に入り、前日から降り続いた雨で足元は黒い泥土でぬかるみ、樹木の根元から延びて露出した枝という枝はくねくねと横に這い、あるいは縦に突き出て、短い足を無理やり引っ張り上げる手伝いをしてくれる。不規則な山道の登りは高さの定まった階段の登りでは味わうことができない貴重な体験であった。約2時間の息つく間もないハードな肉体訓練で、痛い、きつい、辛いから逃げ出したいけど逃げようがないところまで追い込まれなければ、身体を動かさずとしない現代人がここにいた。

山小屋泊まりは楽しい。いつでもお湯が出る暮らしに慣れた身には山の天然水は、最初は冷たく感じられたが、使い続けていると何ともなくなり、洗いものが終わる頃には両手がポカポカして心まで暖かくなった。山小屋で蛇口をひねると水が出るようにするためには普段の努力が欠かせない。山を愛し小屋を愛する会員の存在があっけはじめて成り立っている。定期的に山小屋の管理をする中でも水の確保は大切な作業になる。小屋の裏手の急な山道を長靴で登り水源に辿り着くと、積もった落ち葉をかき出したり水の流れを邪魔しているものを取り除いたり、わが身を粉にしての活躍が必要不可欠なのである。

山のふもとで調達してきた食材も飲料も消耗品のたぐいも参加者全員が手分けして自らの身体で運び、食べて飲んで泊まった後のごみはすべて持ち帰る。人より率先して身体を動かし、人に喜んでもらって嬉しくなる。そして、自らの身体中の細胞という細胞がすべて目覚めて、はつらつとした健康を多に喜ぶ。身体を使う喜びは、暮らしの中で自らの身体を動かす習慣をつけることから始まる。行く手に落ちていくごみは腰をかがめて拾い、出入り口に散乱している履物をそろえてやり、重たい荷物を抱えている人には声をかけて代わりに持ってやる。たったこれだけでも続けていると身体を使う喜びを味わうことができる。(鮎)